

2009年度  
(第104期)

# 期末報告書

2009年4月1日～2010年3月31日



Engine bearings



Crank washers



Bushings



Shoes for automobile  
air-conditioning  
compressor



Cylinder-head gasket



Thrust washers for LSD



Differential carrier



Camshaft housing



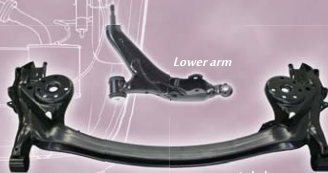
Coil core assemblies  
for linear solenoid valve



EGR valve



Pump assembly vacuum



Lower arm

Axle beam



Balance weights

## CONTENTS

連結業績ハイライト

株主の皆さまへ

2010年度の大豊グループ

決算概要

株式概況

会社概況

 **大豊工業株式会社**

証券コード 6470

## 連結業績ハイライト

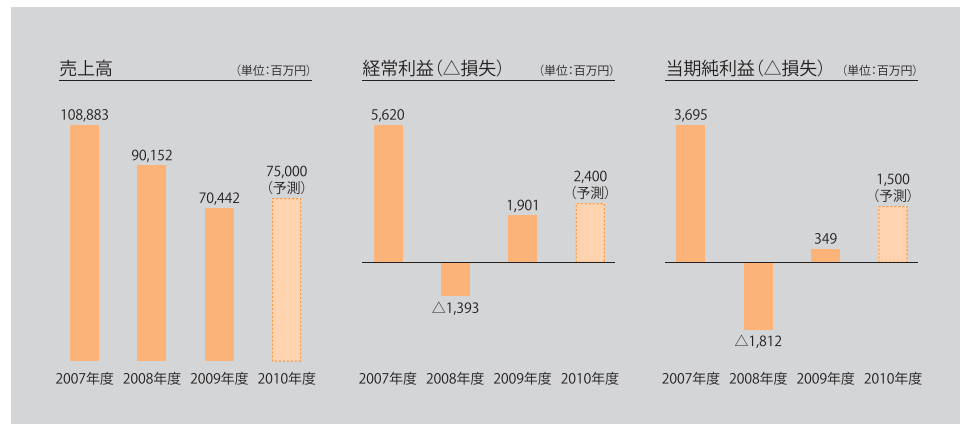
Financial Highlight

### 2010年度3月期実績

■ 売上高	704億円
■ 経常利益	19億円
■ 純利益	3億円

### 2011年度3月期予測

■ 売上高	750億円
■ 経常利益	24億円
■ 純利益	15億円



## 株主の皆さまへ

To Stockholders

### 収益確保から、次の発展に向けて

株主の皆さまには、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。  
2010年3月期の決算報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

2008年後半に端を発する経済情勢の悪化のなか、2009年度は収益確保に向け、文字通り全社一丸となって取り組んだ年でありました。当社は、合理化努力と2009年後半に若干持ち直した自動車生産により、通期連結決算において、グループ会社における自動車関係設備受注の大幅減少の影響を吸収しつつ、当期利益を確保することが出来ました。この間の株主さまの一貫したご支持に対し厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2009年度の収益改善活動と並行し、VISION2015の実現に向けた活動を開始いたしました。自動車業界は今、過去になかった大きな構造変換を迎えつつあります。過去の50年に経験した以上の変化をこの10年で体験するであろうとも言われています。

エネルギーや大気環境ニーズの世界的な高まりと共に、新興国市場の拡大が従来の自動車市場の構造を大きく変えつつあります。CO<sub>2</sub>削減に向けた大幅な燃費向上、これに伴う電気やハイブリッドへの原動機転換、車向と原動機のダウンサイジング、

新興国市場拡大に伴う小型車や低価格車への移行が構造変化を牽引しています。当社は、自動車用軸受やガスケット、システム部品を中心に、いわゆる環境技術をもって製品群を構成しております。この変化を好機ととらえ、2010年初に8テーマの全社プロジェクトを設定し、軸受製造技術の刷新、新規軸受製品と新規システム製品の開発に着手いたしました。短期の拡販努力と併せて、VISION2015達成の鍵として推進してまいります。

今年度の自動車市場は、ギリシャ破綻によるユーロ危機、リコール問題、今秋の優遇税制終了など、依然として不透明感を強く残しています。当社は、合理化努力を継続し、これを強固な会社基盤に繋げると共に、より積極的な拡販活動と2015年を見通した製造技術・製品技術開発活動を通して会社の持続性を高める所存です。株主さまには、継続したご支持・ご鞭撻の程、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2010年6月  
代表取締役社長  
上田建仁



### 会社方針

#### 中期経営計画(2009~2011年度)

- 中期経営方針  
基本に忠実な企業体質づくりと未来への飛躍
- スローガン  
基本にかえり、未来を創造

# 2010年度の大豊グループ

TAIHO Group In Fiscal Year 2010

## 2009年度を振り返って

想像を超えて悪化・低迷する経済情勢の中でスタートした2009年度、その中期には通期純利益を8億円の損失と予測せざるを得ませんでした。最終的に3億円の純利益を実現することができました。

この背景には持ち直してきた日本の自動車産業と、全社一丸の合理化努力の相乗効果があり、今後も収益改善活動は継続してまいります。

さらに収益改善活動と並行して2010年初頭から「大豊グループVision2015」達成に向けた具体的な取り組みをスタートさせました。ここで、その取り組みと進捗についてご報告させていただきます。

## Vision 2015

自動車用ベリ軸受分野で  
世界No.1の実現

### トップブランドの確立

環境・エネルギー・安全等の課題解決に寄与する新製品の開発・提供

大豊グループの総合力を生かした  
型・設備・  
製造システム製品の確立

## Vision2015達成に向けて はじめに着手したこと

Vision2015の達成に向け、全社を通して最優先課題に関して8つのプロジェクトを設定し、機能横断的に仕事を始めました。

また全社的な体制作りとして、これまで細分化されていたセクションを大きく括り直し「仕事の見える化」を推進するとともに、「意思決定や課題解決のスピードアップ」が図れる組織構造としました。

技術・製品の開発にはSE (Simultaneous Engineering) という考え方を取り入れています。これは自動車メーカーへのデザイン・インから始まり、社内では製品の企画・開発・設計から生産準備までをクロスファンクショナルな分業体制で同時進行させるというものです。

これにより、ニーズにスピーディーに応え、タイムリーな製品を市場に送り出すことができるようになったと思います。また、収益改善活動を続けながらも、研究開発・新製品プロジェクトに絞り込んだ投資を予定しています。

Vision2015を確実に達成するためには65年という歴史の中で構築したさまざまな技術(エンジニアリング)を駆使して、お客様に役立つ技術(テクノロジー)を育てて市場に送り出すことが重要だと考えています。

## ニーズに応える

世界No.1を目指す「すべり軸受」の分野では、トライボロジーをコアに軸受素材からの開発を進めており、次世代エンジンのニーズに応えることができる高機能軸受オーバレイ材料として「BPシリーズ」を開発、樹脂コーティング材の「RAシリーズ」に加え、より充実した製品ラインナップとなりました。

### 【新たにラインナップに加わった高機能軸受材料】



BP100/HB210 BP100/H1100

### 【鉛フリーエンジンベアリングラインナップ】

材質	材料名	特徴
鉛フリー	SA152	標準材
	SA162	なじみ性
	SA250	耐疲労性
	SA253	耐摩耗性
	SA260	高周速
	RA530/SA250	高面圧/高周速/耐摩耗性
銅合金	RA500/HS100	高面圧/耐摩耗性
	T300/HS100	高面圧
	BP100/H1100	高面圧/高ロバスト性
	BP100/HB210	高面圧/高周速/高ロバスト性

プッシュ・ワッシャに関して、今後開発される環境対応に向けた新システムへの採用を目指し、さまざまな角度からリサーチを進めています。

また、自動車産業の構造が世界的に変化しようとしている今、機能・性能面だけでなく各地域の情勢に適した製品開発も重要な課題になってきています。

これらに関しては素材、設計、製法、コスト、さらには流通までも含め全ての面で刷新を目指したプロジェクトを設定しています。

### 【軸受技術に関する受賞の履歴】

- 2002年 トヨタ技術開発賞「RA500/HS100」  
日本トライボロジー学会技術賞「RA520」
- 2003年 日本機械学会賞(技術)「RA500/HS100」
- 2004年 第1回モノづくり大賞「Pbフリーエンジンベアリング」  
日本トライボロジー学会技術賞「HS100」
- 2005年 レクサスSプロジェクト表彰(技術の部)「RA530」
- 2007年 日本物理学会若手奨励賞「オーバレイ付エンジン用すべり軸受材料」
- 2008年 第1回岩田トライボネットネットワーク大賞「固体潤滑(RA)コーティング」  
アイシン・エィ・タブリュ技術開発協力賞「HB200」
- 2010年 表面技術協会論文賞「Cu-Sn-Bi合金材料」

## シーズを創る

トップブランドの確立を目指す機能部品の分野では的確なシーズを創り上げるために、開発の取り組みをコンセプト・インへと拡大、自動車メーカーと目標を共有した上で独自の先行開発による排気システム部品を試作、積極的なプレゼンテーションにより新たな分野へと販路を広げつつあります。

### 【軽量化された大型ディーゼルエンジン用EGR/Vレブ】



DCブラシレスモータ駆動  
大型ディーゼルエンジン用  
EGR/Vレブ

### 【先行開発品】



ステッピングモータ駆動  
ガソリンエンジン用EGR/Vレブ

### トルクモータ駆動 アイゼンエンジン用EGR/Vレブ



小型DCモータ駆動  
パキウムポンプ ソレノイド駆動  
排気絞りバルブ

これら将来に備えた先行開発は確実に当社の製品ジャンルとシェアを拡大していきます。

グループ会社の日本ガスケット株式会社はガスケット専門メーカーとして今まで以上に自動車メーカーにおける次世代エンジンの開発に深くかわかり、開発パートナーとしての信頼性を高めています。

### 【エンジンと同時に開発が進められるガスケット】



高度な設計・製造技術が必要な  
V型8気筒用メタルヘッドガスケット



放熱性を高めたインシュレータ付  
V型8気筒用エキゾーストマニホールドガスケット

今後、エンジンのダウンサイジングにより採用が増えると予想されるターボチャージャーに対しても、グループ会社のノウハウを生かし、さまざまな角度から付加価値の高いターボチャージャー部品の開発と生産を強化してまいります。

### 【ターボチャージャー部品】



スラストワッシャ  
フローティングシュ アルミダイカスト製品



アクチュエータ BNコートをした  
ガスケット

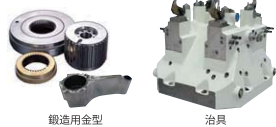
## グループの総合力を生かした設備開発

型・設備・製造システム製品の確立を目指す工機部門は、大豊精機株式会社、株式会社ティーイーティーをはじめとする設備製造会社を有する大豊グループのシナジー効果を生かした設備開発を行っています。

これからの生産設備において求められることは、単にお客様のオーダーに頼った設備造りではなく、「その設備から造り出されるモノは何か?」「その設備で扱うモノは何か?」といったモノ(部品)から発想する設備造りと考えています。

この思想は、お客様に納品する設備や装置に限らず、グループ各社が使用する生産設備の内製化にも生かされており、

### 【新バランスウエイト生産設備】



このように、「モノづくりのプロと設備造りのプロのコラボレーション」が大豊グループの強みであり、製法刷新をより加速できるものと思っています。

今後も積極的に私たちが取り組むべき設備を模索し独創的な設備製造を目指します。

## 部品メーカーとしての環境対応

私たちが生産する製品と環境対応について、高性能EGRバルブは機能部品として排出ガス再循環システムの高機能化に対応し、NOx、CO<sub>2</sub>の排出量低減に貢献しています。また、要素部品である軸受製品の低フリクション化はエネルギー損失を抑え、自動車の低燃費化に結びついています。

さらに燃費向上の重要な要素として自動車の軽量化があります。自動車の軽量化は一つひとつの構造部品の軽量化の集積です。当社では軽量化のためにアルミダイカスト製品や樹脂製品といった構造部品の設計刷新に取り組んでいます。

### 【軽量に向け設計刷新を進めている製品】



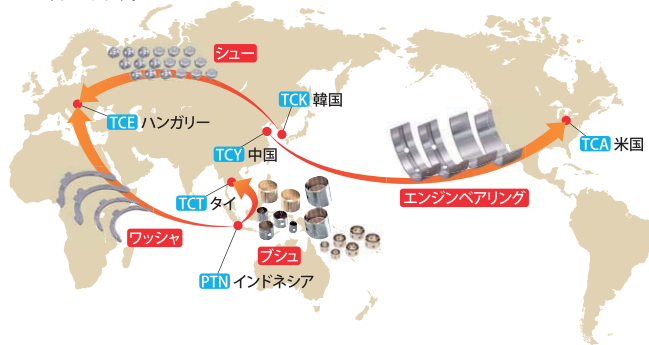
今後は製法刷新も含め、省資源、省電力、リサイクル、廃熱利用など製造環境の改善を進め、LCA(Life Cycle Assessment)\*を前提として環境改善に取り組んでまいります。

\*Life Cycle Assessment (LCA)とは「製品の原材料の採取から製造、使用及び処分に至るプロダクトライフサイクルを通じて、環境側面と潜在的な影響を調査・評価する環境マネジメント」

## マーケットへの対応

自動車市場が世界的に変化しようとしている今、生産拠点の拡充はもちろん、グローバル規模での製品流通の最適化が重要になってきています。

世界四極に展開している大豊グループの生産拠点をネットワーク化し情報を収集、各地の法規制をはじめ市場ニーズの把握に努め、各地域への製品供給を充実してまいります。



## 企業としての社会貢献

当社の社会貢献は言うまでもなく、より良い製品を市場に送り出すことです。これは今までに述べた技術開発・製品開発によりお客様から高い評価をいただいています。

さらにもう一つ、企業市民としての社会貢献も大切と考えています。

当社では独自に主催するボランティア活動をはじめ、トヨタグループボランティア連絡会の一員としてさまざまな活動に参加しています。これら活動に対し、2009年度は第10回中日福祉ボランティア賞を受賞しました。

今後も大豊グループの全生産拠点を中心に価値のある社会貢献活動を展開してまいります。

## 2009年度の主な受賞履歴

- '09年6月
  - PTN 客 先: デンソーインドネシア  
表彰名: 品質部門最優秀賞
- '10年1月
  - TCT 客 先: ミツビシ・モーターズ(タイランド)  
表彰名: 品質賞
- '10年2月
  - PTN 客 先: ANI(アイサンナスモコインダストリ)  
表彰名: 品質不良ゼロ
  - PTN 客 先: ANI(アイサンナスモコインダストリ)  
表彰名: 納期遅延ゼロ
  - TCT 客 先: アイシン・エーアイ(タイランド)  
表彰名: 品質賞
  - TCT 客 先: アイシン・エーアイ(タイランド)  
表彰名: 納期遵守賞
- '10年3月
  - 大豊工業 客 先: 日野自動車(株)  
表彰名: 品質管理優秀賞
  - 大豊工業 主 催: 協業安全衛生研究会  
表彰名: 会長賞
  - 大豊工業 客 先: トヨタ自動車(株)明知工場  
表彰名: 品質優秀賞
  - 大豊工業 主 催: 中日新聞社  
表彰名: 第10回中日福祉ボランティア賞
  - PTN 客 先: TIMMIN  
(トヨタ・モーター・マニファクチャリング・インドネシア)  
表彰名: 品質不良ゼロ
  - TCT 客 先: HMMIT  
(日野・モーター・マニファクチャリング・タイランド)  
表彰名: コスト改善賞
  - TCT 客 先: HMMIT  
(日野・モーター・マニファクチャリング・タイランド)  
表彰名: ベストサプライヤー賞
  - 大豊工業 客 先: トヨタ自動車(株)衣浦工場  
表彰名: 優秀賞

# 決算概要

Financial Statements

## 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当期 2010年3月31日現在	前期 2009年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	<b>38,053</b>	<b>31,901</b>
現金及び預金	14,677	10,814
受取手形及び売掛金	15,105	12,182
有価証券	474	303
たな卸資産	5,501	5,927
繰延税金資産	1,020	974
その他	1,285	1,739
貸倒引当金	△11	△40
<b>固定資産</b>	<b>49,473</b>	<b>54,095</b>
有形固定資産	43,987	48,128
建物及び構築物	11,057	11,527
機械装置及び運搬具	16,240	19,512
土地	12,729	12,699
建設仮勘定	3,049	3,067
その他	909	1,322
無形固定資産	648	685
投資その他の資産	4,838	5,281
<b>合計</b>	<b>87,527</b>	<b>85,997</b>

科目	当期 2010年3月31日現在	前期 2009年3月31日現在
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	<b>24,570</b>	<b>20,557</b>
支払い手形及び買掛金	10,402	8,031
短期借入金	1,000	1,659
1年内償還予定の社債	5,999	5,000
未払費用	3,651	3,572
その他	3,516	2,293
<b>固定負債</b>	<b>19,945</b>	<b>22,960</b>
社債	—	5,999
長期借入金	16,709	13,149
退職給付引当金	1,794	2,153
その他	1,442	1,659
<b>負債合計</b>	<b>44,516</b>	<b>43,518</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>43,597</b>	<b>43,711</b>
資本金	6,193	6,193
資本剰余金	9,662	9,662
利益剰余金	27,930	28,044
自己株式	△189	△189
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△996</b>	<b>△1,626</b>
その他有価証券評価差額金	237	0
為替換算調整勘定	△1,234	△1,627
<b>新株予約権</b>	<b>87</b>	<b>72</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>322</b>	<b>321</b>
<b>純資産合計</b>	<b>43,010</b>	<b>42,478</b>
<b>合計</b>	<b>87,527</b>	<b>85,997</b>

## 連結損益計算書

単位:百万円

科目	当期連結累計期間 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期連結累計期間 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
<b>売上高</b>	<b>70,442</b>	<b>90,152</b>
売上原価	59,697	81,118
販売費及び一般管理費	9,289	10,258
<b>営業利益</b>	<b>1,455</b>	<b>△1,223</b>
営業外収益	1,004	997
営業外費用	558	1,167
<b>経常利益</b>	<b>1,901</b>	<b>△1,393</b>
特別利益	151	61
特別損失	149	923
税金等調整前四半期純利益	1,903	△2,255
法人税、住民税及び事業税	468	297
過年度法人税等戻入額	—	△101
法人税等調整額	1,059	△705
少数株主利益	25	67
<b>四半期純利益</b>	<b>349</b>	<b>△1,812</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当期連結累計期間 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期連結累計期間 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>7,981</b>	<b>4,300</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,209	△7,720
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,682	902
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	△815
現金及び現金同等物の増減額	3,192	△3,333
現金及び現金同等物の期首残高	10,449	13,782
現金及び現金同等物の期末残高	13,641	10,449

## 年間配当金

2010年4月21日開催の取締役会において、2010年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う期末配当金につき、次のとおり決議しました。

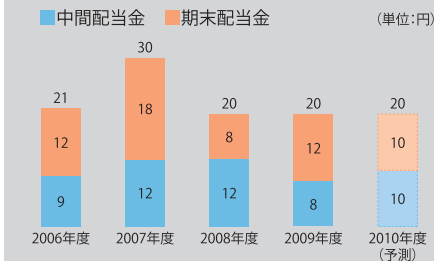
### ①期末配当金

1株につき12円

### ②効力発生日ならびに支払開始日

2010年6月23日

### 1株当たり年間配当金



# 株式概況 (2010年3月31日現在)

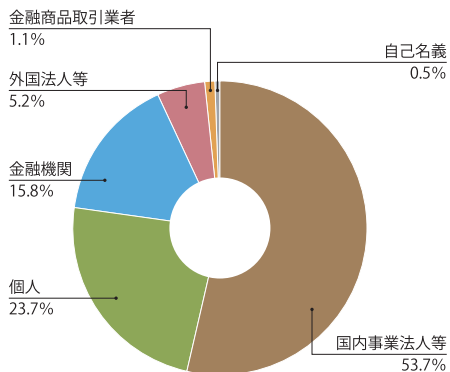
Stock Information

## 株式の状況

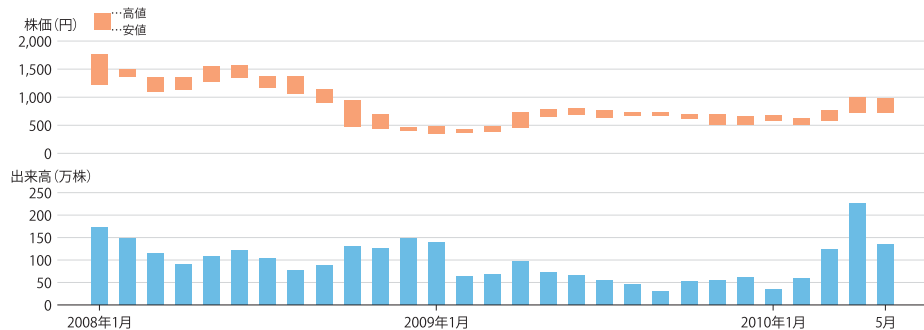
発行可能株式総数	48,400千株
発行済株式の総数	28,222千株
株主数	4,668名
大株主 (上位10名)	

株主名	持株数 (千株)
トヨタ自動車株式会社	9,676
株式会社豊田自動織機	1,427
日本発条株式会社	1,344
豊田通商株式会社	1,071
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,067
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	601
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	565
大豊工業従業員持株会	509
資産管理サービス信託銀行株式会社	354
シービーエヌワイエフエンターナショナルキャブ/リニューポートフォリオ	327

## 所有者別株式分布状況



## 株価の推移



# 会社概況 (2010年3月31日現在)

Corporate Profile

## 会社概要

創業 1944年1月  
 資本金 61億9千3百万円  
 従業員数 連結:3,460名 単独:1,573名  
 本社所在地 〒471-8502  
 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65  
 TEL (0565) 28-2225 (代表)  
 事業内容 軸受製品、ダイカスト製品、ガスケット製品、組付製品他、自動車製造用設備、精密金型等 上記製品の製造および販売

## 事業所および営業所

本社/本社工場 (愛知県豊田市)  
 細谷工場 (愛知県豊田市)  
 篠原工場 (愛知県豊田市)  
 九州工場 (鹿児島県出水市)  
 幸海工場 (愛知県豊田市)  
 土岐工場 (岐阜県土岐市)  
 東京営業所 (東京都中央区)  
 大阪営業所 (大阪府大阪市)  
 デュッセルドルフ事務所 (ドイツ)

## 国内子会社

大豊精機株式会社  
 株式会社ティーイーティー  
 株式会社タイホウライフサービス  
 株式会社タイホウテクノサービス  
 株式会社タイホウパーツセンター  
 大豊岐阜株式会社  
 日本ガスケット株式会社

## 主な海外子会社

タイホウ コーポレーション オブ アメリカ  
 タイホウ ヌサンタラ株式会社  
 タイホウ コーポレーション オブ ヨーロッパ 有限会社  
 韓国大豊株式会社  
 大豊工業 (煙台) 有限公司  
 タイホウ タイランド株式会社  
 タイホウ マニュファクチャリング オブ テネシー LLC

## 役員 (2010年6月22日現在)

代表取締役社長	上田 建仁
代表取締役副社長	河合 弘義
代表取締役副社長	天野 利紀
専務取締役	斎藤 和幸
専務取締役	山崎 謙一
専務取締役	河野 文隆
常務取締役	近藤 隆彦
常務取締役	川上 真也
取締役	鳥崎 敬一
取締役	神谷 莊司
取締役	佐藤 英知
取締役	柴田 兼次
取締役	河合 信夫
取締役	佐藤 光俊
取締役	大河内 光人
取締役	松野 雅廣
常勤監査役	野々山 秀夫
常勤監査役	安藤 公夫
監査役	井上 洋一
監査役	安田 益生

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
ホームページ	<a href="http://www.taihonet.co.jp/">http://www.taihonet.co.jp/</a>

 **大豊工業株式会社**

お問い合わせ先 TEL (0565) 28-2225 総務部広報室